

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会

<https://www.j-kana.or.jp/>
email: info@j-kana.or.jp



3

March, 2020
vol. 425

新しい設計ツールを使いこなす・・・
とちぎBIMコンペ最優秀賞受賞者に聞く！



Contents

建築探訪（日本最古のビアホール）	01
会員仕事紹介（個人事務所におけるBIMの活用）	03
支部だより（厚木支部カローリング大会・藤沢支部紹介）	05
旅行記（静岡建築ツアー）	07
委員会活動報告（災害時対策特別委員会の活動）	09
編集者のつぶやき（やっと春が来る）	10

日本最古のビヤホール「ビヤホールライオン銀座七丁目店」

スタジオアートクリエイト一級建築士事務所 杉本 勝郎



1

ライオン銀座七丁目店は、昭和9年4月に竣工し現存する最古のビヤホールである。実に86年に渡る年月を奇跡的に生き抜いてきた。設計者は菅原栄蔵。新橋演舞場の設計でも知られている。文献等にはフランクロイドライト風の作風と言うような解説が付くが、実際には師弟関係は無く独学でライトを研究したとされているが、それにも諸説あるらしい。

1階ビヤホールのモザイク壁画の原画は菅原栄蔵自身によるもので、所員が数か月に渡って仕上げたとされている。

それ以外にもアールデコ調の装飾におけるディテールの美しさに心惹かれる。

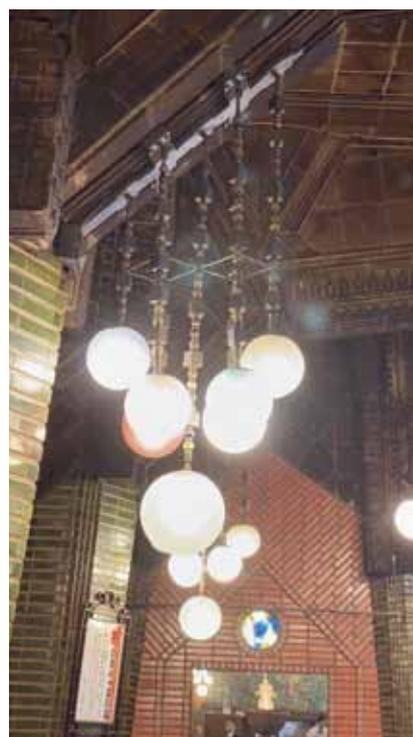
ビヤホールの天井の高さも特筆すべきで客で賑わいをみせる夕暮れ時その喧騒を受け止める工夫とも取れ独特な空間を形作っている。

6階の宴会場「クラシックホール」はまた違った雰囲気を持つ空間が待っている。

ここにも設計者のこだわりの

ディテールが満載である。

外観においては一時事務所使用による改修により当時の面影を残す部分は最上階の一部に残すのみとなっているがその造作も精緻な印象の中往年の姿を彷彿とさせるものがある。





(宴会場 クラシックホール)



(クラシックホールの凝った意匠)



(アールデコ調の外部装飾)

なお「景観整備機構指定勉強会第2回」として3月30日にはユニコムプラザさがみはらに土地の記憶を活かす・継ぐ『銀座ライオン・茅ヶ崎熊澤酒造の取り組み』が開催されるのでお知らせする。



(外観に残る当時のデザイン)



(正面玄関)



(建物サイドの玄関)

建築メモ 旧大日本麦酒本社

- ◎設計：菅原栄蔵
- ◎施工：竹中工務店
- ◎竣工：昭和9年（1934年）
- ◎構造：鉄骨鉄筋コンクリート造り6階建
- ◎所在地：東京都中央区銀座7丁目9-20

個人設計事務所におけるBIMの活用

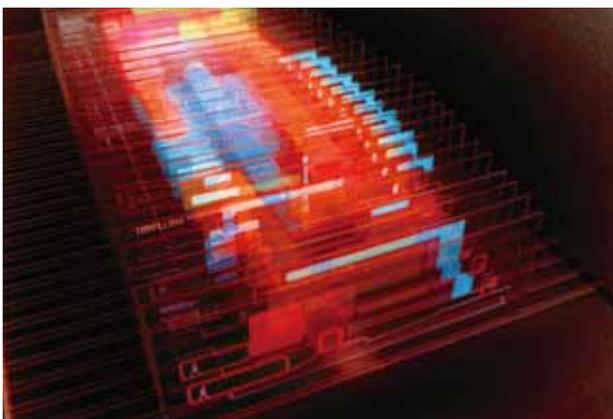
養清堂アーキテクト建築設計事務所 阿部 仁祐



マロニエBIMコンペティション提出案

BIMによる3Dデータを審査対象とする「とちぎ建築プロジェクト2019・マロニエBIM設計コンペティション」に昨年参加し、思いがけず最優秀賞受賞の結果を得た。個人設計事務所ではBIMの活用を模索する中、自分なりのマイルストーンを踏むことができたようである。今後の展開も含めたこれまでの試行錯誤の一部をご紹介したい。

3 私設計事務所を始めた2005年頃のCADによる設計環境は、私がアメリカに渡った1998年頃の状況とほとんど変わっていなかった。すでにBIM導入に踏み切っていた大手組織設計事務所や、BIMベンダーを中心とした活発な情報交換が行われていた一方で、小規模の設計事務所では2次元での平立断面図を個別に描くことが主流であり、パースなどのCG作成は専ら外注や一部の3Dモデリングを得意とするスタッフが別途行っていた。しかしCGや模型などを常に携えてプレゼンに挑む、という熱意を見せる為に用意された「絵」である場合も多く、実際の建物との不整合をどう調整するかは、設計者の腕にかかっていた。



アクリルと蝋によるコンセプト模型

一方で日本の設計環境同様、渡米先であったシカゴの多くの事務所や教育現場では、手作業による模型製作も盛んに行われ、また大組織事務所や建築大学にもなると、伝統的に整備された木工室が日常的に活用されていた。本格的な木工機械の数々と共に、当時最先端であったレーザーカッターも備えられ、デジタルとアナログの境界を意識することなく模型製作が設計をサポートする体制であった。

ある大組織事務所での事業コンペのプロジェクトにおいて、そのプロセスの鮮やかさに衝撃を受けたことがある。WAR ROOMと手書きで書かれた会議室に集まる5-6名が、油粘土の塊を前に複合施設のコンセプトについて熱く語り合っていた。ほんの数日後には、輝かしいCGの数々から各種図面やダイヤグラム、そして精細な模型までもが完成していた。組織力による分業の為せる技ではあったものの、あの稚拙といっても良いような初期の粘土の塊を囲んだ、設計意図伝達のプロセスがなければ、これほどスムーズにはまらなかったであろう。

要求される諸々の建築条件と設計者としての意図が、短期間に効率よく纏められ、建築主がアッと声を上げて喜ぶ、という幸せなシナリオの実現をBIM普及前のアメリカでの設計現場で度々目にした。



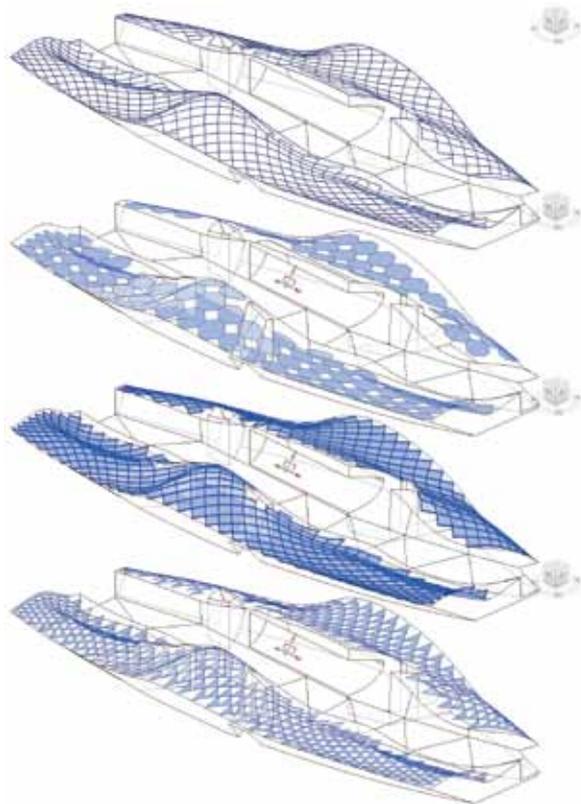
マロニエBIMコンペティション公開審査後の懇親会の様子

私がBIMという道具に惹かれるのは、同様の手際の良さと、設計意図のインパクトを早い段階で表現する楽しさ、そして現実的な問題は後から

じっくり皆で解いていくというプロセスが期待できる点である。この瞬発力は後々具体的な設計として発展させるための、関係者の反応や協力を引き出すのにも重要な部分である。

冒頭に触れた「マロニエBIMコンペティション」は、同時配信される課題を参加者各自が一斉に受信し、72時間以内に計画案のBIMデータとして送り返すもので、2次審査ではさらに公開審査用の動画が要求された。

アイデアの視覚的な表現に必要な情報を、短時間に個人の力量の範囲内で用意できる点がまさにBIMの特徴の一つであり、この瞬く間に過ぎてしまうプロセスを、他の組織規模の設計者や学生たちと競えるというのが、このコンペの面白さであった。



マロニエBIMコンペティション
架構形式の検討および3Dスキャンの様子

コンペの提案では、仮定の複数人によるブレインストーミングを原始的な粘土という媒体で検討するワークショップ形式のプロジェクトとして想定した。アイデアを粘土である程度固め、直接3Dスキャナで取り込みBIMデータ化していくという試みであった。複雑な架構の考え方、材質、日照の検討など時間が許される範囲での基本的な考察を重ねた。このコンペで高評価を得られたという意味は、BIMという道具の使い次第で、設計者個人の役割範囲を再定義可能かもしれないという実感であった。



BIMデータによるシミュレーション

意見の取り纏めという役割の一部として、仮定の3DモデルによるVRや各種シミュレーションによる意匠、性能の確認や検討にも、BIMの活用によって計画の今以上の現実性を求めることが可能と思える。また、分断されがちな設計から施工・製作への架け橋として、BIMデータと連動する工作機械によるデジタルファブリケーションの領域というものにも、設計者や建築主が新しいタイプの工種として参加していく可能性も考えられる。

BIMに注目が集まる昨今であるが、本来のメリットである建物のライフサイクル全般での活用という高いハードルが、事務所規模と設備投資とのバランスからのBIM導入の判断を鈍らせている。

BIMはレイヤー設定を気にしながら一本一本の線を引くのではなく、性能という情報を付加された床や壁をひとつずつ建設し、その結果を視覚的に確認していく感覚であり、少なくとも建物を建設する楽しさに溢れている。手書きのスケッチや模型の良さも十分残しつつ、それらを併用したBIMによる設計は、実際に出来上がる建物と計画との誤差を抑え、現実的な性能や意匠的な見え掛かりの共有、さらには労働時間や外注費用の見直しなど、個人事務所にとっても大きなメリットは十分あるのではないかと、というのが私の印象である。

厚木支部カローリング大会

厚木支部では毎年、忘年会に合わせてカローリング大会を実施しております。「カローリングはオリンピック等で知っているが、カローリング??」とお思いの方は多いかと思えます。

カローリングは、カナダや北欧、我が国でも雪国などで親しまれている氷上のスポーツ「カローリング」にヒントを得て、1993年に誕生した全世代で楽しむことのできるインドアスポーツのことをいいます。

カローリングは氷上にストーンを滑らせて競技を行いますが、カローリングでは体育館などのフロアの上を、裏面にローラーが設置された「ジェットローラー」を軽快に投球（＝転がす）ことによって競技を行います。

3人1チームの対抗戦で交互に投球することでゲームは行われ、最終的にポイントゾーンにある自チームのジェットローラーが、いかにゾーンの中心に近いかで勝敗が決まります。カローリング同様、相手チームや自チームのジェットローラーに当てても、自チームのジェットロー

厚木支部長 奈良なおし 改修設計 奈良 直史

ラーをポイントゾーン手前において壁を作り、防衛しても構いません。

競技自体は難しくはないのですが、ジェットローラーは力加減、握り加減、僅かな床の傾き等を素直に拾い、スライス、フックが発生しますので、コート of の癖なども見抜いて、絶妙な力加減で投球する必要があります。

ももとは本支部の一戸会員が神奈川県カローリング協会にご参加されているご縁でスタートし、同協会より審判員も毎年派遣頂き、今では賛助会員各社様、近隣支部の挑戦もあり、年々参加者が増えております。よほどのことがない限りは2020年度も11月下旬に開催する予定ですので、挑戦されたい賛助会企業様、支部のみなさまは3人仲間を集って挑戦状を厚木支部へお送りいただければと思います。

2019年度厚木支部カローリング大会結果（敬称略）

1位	日本ERI（株）厚木支店（賛助会・寺越、内田、小泉）
2位	（株）創和加藤設計（厚木支部・一戸、鈴木、平林）
3位	チームあいちゃん（愛川支部・来住野、矢後、中山）

5



藤沢支部紹介

藤沢支部長 三村邦彦建築設計事務所 三村 邦彦

久しぶりに廻ってきた「支部だより」の寄稿依頼は、仕事展以外の記事だと補足条件付き。

確かに前回・前々回の支部だよりは、「ふじさわ建築しごと展」を紹介し、以前から開催されていた横浜支部・鎌倉支部に続きその後、各支部でも仕事展が開催されるようになり定着してきていると思われしますので、広報情報委員会から条件付きに納得。

私が入会した当時の藤沢支部会員数は23事務所ほどで、各支部の建築士事務所登録割合比率から神事協のお荷物支部と言われ、肩身の狭い思いをしていました。

5年前から開催を始めた「ふじさわ建築しごと展」を契機に会員数が42事務所まで増えましたが、最近また減少傾向にあり危機感を持っています（と表向きには低頭姿勢）。

数的には会員数が減少していますが、その間にも新たに若い仲間も入会しており、支部会員の若者率は高水準で、多くのベテラン・若手メンバーが本会・支部委員会等へ積極的に参加

活動しており、数より質が大事と思っている今日この頃で、支部長としては正直なところあまり心配しておりません。

が、神事協として会員増強が永遠の命題であることも承知しております。

会員増強に特效薬はないと思っていますし、近年の建築士事務所登録数の減少・高齢化等を考えたら現状維持さえ難しい時代に向かっている感さえあります。

今後の建築士事務所協会には、今以上に知名度、ブランド力を高め、社会に認められる団体となる事が大事で、その為には底辺である地域・支部活動をなお一層発展・充実したものとならなければ、支部会員の増強・継続に繋がらないと考えており、その為にはやはり若手が積極的に参加し、刺激を与えあい神奈川県内で建築設計を業とする事務所は神事協会員であることがステータスとなる日がくればと願い、藤沢支部としても「数より質と」言い訳しないように「数、質とも」少しずつ前進する支部を目指し、以後ご期待を。



昨年に続き「ふじさわ建築しごと展」をショッピングモール(湘南モールフィル)で2月8日・9日に開催しました。今年も例年以上にシンポジウム・セミナーを充実した企画で盛況でした。

静岡建築ツアー

一級建築士事務所小山将史建築設計事務所 小山 将史

私事ですが、昨年9月末に某団体の静岡建築ツアーに1泊2日で行ってきました。

【1日目】

◎江川邸（重要文化財）

- ・伊豆の国市韮山韮山1 (<http://www.egawatei.com>)
- ・築約400年。大屋根の豪壮な架構が特徴。

◎蔵屋鳴沢（昼食）

- ・伊豆の国市中272-1 (<http://izufull.com/kuraya-narusawa/index.php>)
- ・こだわりの網焼きと地ビールを提供するビアレストラン。

◎韮山反射炉（世界遺産）

- ・静岡県伊豆の国市中260-1
(https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/bunka_bunkazai/manabi/bunkazai/hansyaro/)
- ・江戸時代末期、韮山代官だった江川氏の進言で築かれた大砲鑄造炉。

◎富士山世界遺産センター（設計：坂茂氏）

- ・富士宮市宮町5-12 (<https://mtfuji-whc.jp>)
- ・富士ヒノキを繊細に組み上げた壁面。逆円錐形の姿が池に映ると富士山となる。

◎焼津市総合体育館（改修設計：山下設計）

- ・焼津市保福島1050
(http://www.city.yaizu.lg.jp/shisetsu/bunkasuportu/si_garudome.html)
- ・改修工事事例。地下水熱交換利用+EHPのシステムを採用。

7

【宿泊】

◎焼津グランドホテル

- ・焼津市浜当目1489 (<http://www.sn-hotels.com/ygh/>)
- ・海と緑のシーサイドリゾート。露天風呂から海を眺望。

【2日目】

◎日本基督教団駿府教会（設計：西沢大良氏）

- ・静岡市葵区相生町15-1 (<https://www.sunpukyokai.org>)
- ・自然の木材に囲まれた光と音の聖なる空間。木材を割いて張った外壁も特徴。

◎芹沢銈介美術館（設計：白井晟一氏）

- ・静岡市駿河区登呂五丁目10-5 (<https://www.seribi.jp>)
- ・石を積み上げた量感ある外壁、銅板葺きの屋根、白木の檜材の組天井が特徴。

◎登呂遺跡（特別史跡）

- ・静岡市駿河区登呂五丁目10-5 (<https://www.shizuoka-toromuseum.jp>)
- ・日本で初めて確認された弥生時代の水田跡の遺構。

◎丁子屋（昼食）

- ・静岡市駿河区丸子7-10-10 (<https://www.chojiya.info>)
- ・創業400年超。丸子宿と言えばとろろ汁、とろろ汁と言えば丁子屋。

◎日本平夢テラス（設計：隈研吾氏）

- ・静岡市清水区草薙600-1 (<https://nihondaira-yume-terrace.jp>)
- ・県産木材をふんだんに使い、富士山を望む自然景観と調和した施設。

宴会では、ラグビーW杯とも重なり、日本代表の勝利とともに盛り上がりました。



江川邸



日本基督教団駿府教会



蘆山反射炉



芹沢銈介美術館



富士山世界遺産センター



登呂遺跡



焼津市総合体育館



日本平夢テラス

委員会活動報告

災害時対策特別委員会の活動

災害時対策特別委員会 委員長
はやかわ建築計画 早川 慶太

私ども災害時対策特別委員会は、主に神奈川県
の委託業務を行っております。本年度は「建設型
仮設住宅の供給に係る事前対策検討業務委託」
を受け、神奈川県が改新しようとしている標準
仕様書と標準プランについて検討を行いました。
委員は月に一回のペースで事務局会議に集まり
議論を交わしています。

建設型仮設住宅はプレハブ造と木造がありま
す。東日本大震災以降、木造の仮設住宅が増え
ているという状況の中で、仕様において県民に
対しての公平性という観点から見直しが求めら
れていました。統一した一律の仕様を考えてい
た神奈川県に対して、私たち委員会では一律に
まとめるのではなく、性能値を基にした「仕様
方針」を作り、その性能を満たしたプレハブの
協定団体、木造の協定団体それぞれの「標準仕
様書」があるという、段階的に整理する仕組み
を提案させていただきました。また実際に建設
を行う協定団体のヒアリング調査で、団体毎の
事情や災害時の資材調達状況によって、仕様が
変更になることも分かりました。この点につい
ても、標準仕様書から変更になる理由が明確に
なるような仕組みをつくり、資料として保存さ
れるルールを作りました。県民の公平性という
観点に対して、経緯が明確になる仕組みを作る
ことで、各市区町村職員も協定団体も安心して
迅速に仕様を決定できる、有効な仕組みが作れ
たと思います。

標準プランにおいては、昨年度に提案したコ
ミュニティに配慮した配置計画に対応する住戸
のプランが求められました。従来の標準プラン
は窓側に個室が並ぶ間取りで、中庭に住戸を開
きコミュニティを図るという、配置計画の意図
に沿う間取りではありませんでした。部屋の大
きさも和室の生活スタイルとモジュールを前提
につくられたプランであり、現代の生活スタイル
に順応したプランに見直しを図るべきとも考
えました。具体的にはパブリック性が高いダイ
ニング・キッチン窓側に設け、ダイニングテ
ーブルが置ける広さにするなど、新しいプラン

を県と一緒にすることが出来ました。この機
会に現代の生活スタイルとコミュニティという
視点で新たなプランを作成できたことは、大き
な意味を持つと思っています。

上記以外にもうひとつの業務として、神奈川
県の各市区町村の応急仮設住宅担当職員に向け
た講習会があります。本年度は2月10日(月)にち
ょうこの講習会を終えたばかりです。まる一
日掛けて講義と演習を行い、実際の仮設住宅建
設候補地を用いて、コミュニティに配慮した配
置計画を行うという、実践形式の講習会です。
講義は大和田副会長が応急仮設住宅のコミュ
ニティ形成から、新しい標準仕様、標準プラン
の内容を解説し、担当職員の理解を深めました。
演習は5つの候補地に各市区町村の職員がラン
ダムに別れ、当委員の会員がファシリテーター
としてそのグループをまとめます。候補地の周
辺環境を皆で読み取り、その場所に必要なコ
ミュニティとは何かを考えてもらうワークショップ
形式の演習です。平時からコミュニティを考
えることの重要性を分かりやすく体感できる
内容で、準備は本当に大変ですが、今後も継
続して啓蒙していくべき活動だと個人的には
感じております。

昨年は台風15号と19号が神奈川県に甚大な
災害をもたらしました。防災が建築界におい
ても大きなテーマとなっている中で、当委員
会は、実務を伴う些か大変な委員会ではあり
ますが、社会的な意義は大きいと考えていま
す。また設計事務所として、災害時の要請に
応えていけるスキルを磨くことも平時の備
えになると思いますので、会員の皆さまの
積極的な参加をお待ちしております。



新入会員のご紹介

1月入会者

横須賀支部

菊池建設株式会社一級建築士事務所 渡川 祐之
〒230-0051横浜市鶴見区鶴見中央4-36-1 ナイス第2ビル8階
TEL.045-503-0303 FAX.045-503-1007

退会者

横浜支部

株式会社デザインデポ一級建築士事務所 三浦 修
株式会社サンユウ設計 山下 宗暁
株式会社テリトプラン一級建築士事務所 菊池 理夫

藤沢支部

有限会社古沢設計スタジオ 古沢 隆夫
株式会社深田工務店二級建築士事務所 深田 義道

鎌倉支部

有限会社中村正昭一級建築士事務所 中村 正昭

変更

横浜支部

株式会社オール・フラッツ 一級建築士事務所
(事務所所在地、TEL、FAX変更)
〒216-0004川崎市宮前区鷺沼1-15-16-102
TEL.044-750-0997 FAX.044-750-0998

株式会社日興タカラコーポレーション一級建築士事務所
(事務所所在地変更)
〒224-0061横浜市都筑区大丸9-16 第一幸喜ビル4階

株式会社ハマツウウェイ一級建築士事務所
(事務所所在地変更)
〒222-0033横浜市港北区新横浜2-15-12 共立新横浜ビル1階

戸田建設株式会社横浜支店 一級建築士事務所
(事務所所在地、TEL、FAX変更)
〒220-0012横浜市西区みなとみらい4-4-2 横浜ブルーアベニュー13階
TEL.045-228-8976 FAX.045-228-8257

湘南三浦支部

二級建築士事務所有限会社ニッペイ
(事務所所在地変更)
〒249-0005逗子市桜山5-30-19

鎌倉支部

有限会社波形住建二級建築設計事務所
(指定代表者変更) 波形 知良

海老名支部

株式会社SAplus建築設計事務所
(事務所所在地、FAX変更)
〒243-0427海老名市市杉久保南1-7-1-101
FAX.046-207-8386

賛助会退会者

ユナイト株式会社

会 勢

支部名	平成31年4月1日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	261	255	4	10	-6
川 崎	105	105	1	1	0
横 須 賀	50	51	1	0	1
湘 南 三 浦	18	17	0	1	-1
藤 沢	40	36	1	5	-4
鎌 倉	40	39	1	2	-1
茅ヶ崎寒川	17	16	0	1	-1
平 塚	22	23	1	0	1
秦 野	16	15	0	1	-1
伊 勢 原	6	6	0	0	0
大和綾瀬	18	20	2	0	2
厚 木	28	28	0	0	0
座 間	15	15	0	0	0
海 老 名	16	16	0	0	0
愛 川	6	6	0	0	0
相 模 原	67	63	0	4	-4
県 西	41	40	0	1	-1
合 計	766	751	11	26	-15
賛助会員	100	105	6	1	5

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

編集者のつぶやき

やっと春がくる。私の事務所では爬虫類が放し飼いでいて、寒さと乾燥に厳しい季節が終わるとホッとします。毎日の温度管理は、23度以上になっていて、来客には暑そう。爬虫類といってもイグアナとかではなくて、リクガメなので、ちょっと大きな亀さんがうろろうしているという具合。午前中は、よく動き廻るため、打ち合わせをしても、大半亀の話になってしまう。

湿度の扱いが非常に難しく、加湿器だけでは賄えず、濡れタオルや観葉植物などから40%くらいを保っているけれど、50%は欲しいところ。湿度を高くすることが非常に難しい。リクガメ専用のケージがあるので、体温が下がるとホットスポットへ体を温めにいっている。

リクガメ二匹と共に温かい日が待ち遠しい。



(川崎支部 合同会社春紫建築設計事務所 赤川真理)

10

KANAGAWA 令和2年3月号 (通号425号)

発行 令和2年3月1日 (奇数月1日発行)
 発行人 白井 勇
 発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
 〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 加瀬ビル201 2F
 TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
 印刷所 株式会社 柏苑社

- ・ 担当 副 会 長 大和田 優
- ・ 広報情報委員長 杉本 勝郎
- ・ 広報情報副委員長 加藤 一郎
- ・ 広報情報委員 雨森 隆子 有泉 絵美 赤川 真理
- ・ 小井口 将史 中原 尚代
- ・ 小井口 英寿 仙波 弦
- ・ 事務局 久保田 千尋



今月の表紙

県立相模原公園のフランス式庭園

今を去ること28年前「グリーンウェーブ相模原'92」と題打って緑化フェアが行われたのがここ相模原公園。昭和初期陸軍士官学校練兵所そして米軍座間小銃射撃場の跡地なのは知る人ぞ知るところ。今はメタセコイアの並木と緑豊かな庭園が静寂を奏でており、そばに かつて緑化フェアのメインパビリオンであった温室が花を添えている。